

社会資本総合整備計画 事後評価書
(新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進)

東京都葛飾区

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

平成28年 3 月 25 日

計画の名称	1 新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進			
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度 (5年間)	交付対象	葛飾区	
計画の目標				

新小岩駅地区は、葛飾区の南部に位置し、駅を中心に区内最大の繁華街を形成し、その周辺に住居系地域が広がっている。駅南側に駅前広場があるが、交通が集中し混雑が著しいため、駅東北側に新たな交通広場を整備している。駅周辺は、JR線（総武線）と補助第140号線（平和橋通り）によって大きく4つのエリアに分断されており、特に線路で分断された南北間の歩行者動線は、JR線と立体交差している平和橋通りのみであり、その歩道は駅改札から離れており掘割状で幅員も狭く、歩行者と自転車とが交錯するなど、歩行者にとって安全性と利便性に欠けている。駅の日乗降客数は約14万人であり、エスカレーターや車椅子用リフトは整備されているが、エレベーターが無く、十分なバリアフリー化がされていない状況である。

区では、平成13年に都市計画マスタープランを策定し、新小岩駅周辺を「魅力的で身近な広域生活拠点」と位置付け、広場や自由通路の整備、地元商店街の活性化など総合的な都市基盤、環境整備を進め、交通機能、商業・生活サービス機能の充実及び駅周辺の一体性・回遊性の向上を図っている。現在、補助第330号線（東北交通広場）、葛飾歩行者専用道第1号線を整備中であり、さらに今後、南北の駅前広場を往来できる南北自由通路を整備し、両広場の交通結節機能の向上とバリアフリー化を図っていく。

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・新小岩駅圏を重点整備地区に位置付け、バリアフリー化を促進する。 ・新小岩駅周辺の利便性向上を図り、駅周辺の来訪者の増加を図る。 			
----------------	---	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考					
	当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)						
① 新小岩駅圏のバリアフリー化の進捗状況を調査する。	0 / 28項目	14 / 28項目	28 / 28項目						
② 新小岩駅の乗降客数を調査する。	144,000人/日	145,000人/日	146,000人/日						
全体事業費 合計 (A+B+C)	5,512百万円	A	5,236百万円	B	276百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
評価の内容について、関係機関等に意見聴取したうえで事業主管課において事後評価を実施。	平成28年3月23日
	公表の方法
	葛飾区ホームページ上に掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																
A1 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H22	H23	H24	H25	H26			
1-A-1	交通	一般	葛飾区	直接	葛飾区	新小岩駅地区都市交通システム整備事業	自由通路、延長L=90m、幅員W=10m	葛飾区						5,236	事業中	
小計 (道路事業)													5,236			
合計													5,236			
B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H22	H23	H24	H25	H26			
1-B-1	街路	一般	葛飾区	直接	葛飾区	都市計画道路補助第330号線	交通広場5,038㎡、延長L=412m 幅員W=19～25m	葛飾区						183	事業完了	
1-B-2	街路	一般	葛飾区	直接	葛飾区	都市計画道路葛飾歩行者専用道第1号線	延長L=140m、幅員W=8m	葛飾区						93	事業完了	
合計													276			
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考	
1-B-1	駅南口に集中する交通の分散を図るとともに地域交通の円滑化と防災性の向上を図る。															
1-B-2	東北交通広場と駅北口とを結ぶ歩行者専用道として、駅周辺の安全な移動と回遊性の向上を図る。															
C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
合計																
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考	

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<p>【基幹事業(1-A-1) 新小岩駅地区都市交通システム整備事業】 事業中につき、事業効果は発現していない。</p> <p>【関連社会資本整備事業(1-B-1) 都市計画道路補助第330号線】 移動等円滑化のために必要な道路構造の基準に基づき歩道のセミフラット化(段差の少ない構造)などを行い、本区バリアフリー基本構想(新小岩駅圏移動等円滑化基本構想)に位置付けられている「生活関連経路7及び8」のバリアフリー化を行った。</p> <p>【関連社会資本整備事業(1-B-2) 都市計画道路葛飾歩行者専用道第1号線】 道路法の歩行者専用道に位置付け、移動等円滑化のために必要な道路構造の基準に基づきエレベーターの設置などを実施し、本区バリアフリー基本構想(新小岩駅圏移動等円滑化基本構想)に位置付けられている「生活関連経路12」のバリアフリー化を行った。</p>			
II 定量的指標の達成状況	指標①(バリアフリー化事業の進捗状況)	最終目標値	28/28項目	目標値と実績値に差が出た要因	6項目の事業については事業実施中であり、3項目の事業については基幹事業の完成に併せて実施する事業であるため、9項目の事業が未完了となった。
		最終実績値	19/28項目		
	指標②(新小岩駅の1日の乗降客数の増加)	最終目標値	146,000人/日	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	144,300人/日		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		<ul style="list-style-type: none"> ・関連社会資本整備事業1-B-1の事業実施により、バス停留所やタクシー乗り場が新設されたため、交通結節機能が向上した。 ・関連社会資本整備事業1-B-2の事業実施により、駅北側東西方向の歩行者移動時間が短縮(13~23%短縮)され、駅の東北地区から改札口までの歩行者の移動サービスが向上した。 			
3. 特記事項(今後の方針等)					
<p>【目標の達成状況】 本整備計画に掲げた成果目標として、平成23年3月にバリアフリー基本構想(新小岩駅圏移動等円滑化基本構想)を策定し、新小岩駅圏を重点整備地区に位置付けた。さらに、平成24年3月に移動等円滑化特定事業計画を策定し、この計画に従ってバリアフリー化事業を進めている状況である。現在、基幹事業(1-A-1)については事業中であるが、関連社会資本整備事業(1-B-1)として位置付けた都市計画道路補助第330号線の整備による交通広場の新設により、駅南口に集中する交通の分散化を図られた。また、関連社会資本整備事業(1-B-2)都市計画道路葛飾歩行者専用道第1号線の整備によって、駅北側の安全な歩行者移動が可能となり、東西の分断は解消された。</p> <p>【今後の方針】 新小岩駅地区の課題である南北の安全で快適な歩行者動線を確保するために、基幹事業(1-A-1)新小岩駅地区都市交通システム整備事業の確実な推進を図るとともに、基幹事業に併せて実施するバリアフリー化事業についても確実な推進を図る必要がある。また、基幹事業(1-A-1)新小岩駅地区都市交通システム整備事業は、第2期の整備計画(計画期間：平成27年度から平成31年度まで)を策定し、事業継続中であるため、事業完了後に事後評価を実施する予定である。</p>					

計画の名称	1 新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進		
計画の期間	平成22年度 ~ 平成26年度 (5年間)	交付対象	葛飾区

